

カバンにはいつもiPad

特別支援教育に役立つアプリが増えてきたという。知人が開発した「子ども静かにタイマー」は、話し声の大きさが設定値を超えると犬が目覚めて吠え出すというもの。「声の大きさを感覚的に理解するのが難しい子どもに、『静かに話すというのはこれぐらいの声の大きさなんだよ』と、音量を視覚的に示すことで理解を促し、かつ、楽しみながら学習することができます」



スーツの方が楽だけど…

今年34歳と教員陣の中でも若く、普段はカジュアルな服装が多いという。「ディスカッションなどではできるだけ学生と同じ目線でやりたいので、自然とカジュアルな格好が多くなりました。本当はスーツの方が楽ですけどね」

Shake!Shake!

大の酒好き。来客があれば学生時代から愛用のシェーカーを振ってカクテルを作るとか。パッシモやマリブなど、カクテルのベースとなる酒を最高で40本ほどそろえていた時期もあったが、最近は育児に時間を取られて買い足せないそうだ。



海外出張の土産

5年ほど前から海外出張の際、スターバックスの各国限定のタンブラーやマグカップを買うようになった。「夏にベトナムで集中講義をするので、ホーチミンにオープンした店に行こうと思います」



次はどこを走ろうかな

子どものころから国道が好きで、道路地図を見ながらどんな風景が広がっているのかと思いを巡らせていたという。運転免許を取得してからは全国の国道を次々と走破していき、近畿は全てクリアした。「目当ての国道へ行くのに、最寄りのインターまで高速を使うのは邪道。自宅からひたすら地道を走り続けます」。「国道道」とはなかなか厳しいもののようだ。



おがわ ひさし

小川修史 講師

行動開発系教育コース

京都府出身。平成15(2003)年、和歌山大学システム工学部から同大学院博士前期課程に進む。20(2008)年、博士後期課程を修了し、兵庫教育大学大学院兼情報処理センターの助教に就く。25(2013)年から現職。教育学の観点から特別支援教育のアプローチを試みており、教員向けソフトウェアの開発などに取り組んでいる。授業は「情報処理基礎演習1・2」(学部)、「教育情報工学特論」(修士課程)などを担当。

先生に質問!

Q&A

Q 特別支援教育の現場向けにどのようなソフトウェアを開発しましたか。

A 特別支援学校には、自分の気持ちを手言葉で表現できない子どもが多くいます。そのため、教員は子どもの気持ちを推測するのですが、時にはうまくできないときもあります。そこで、複数の教員が授業のビデオを見て、子どもの気持ちを推測し、それを画面上の吹き出しに表示するアプリの開発・研究を進めています。

Q 今後、どのような研究を進めていきたいですか。

A 障害のある子どもたちは「伝えたい」という意思を強く持っていますが、彼らにとって伝えることは非常に高い壁です。パソコンやタブレット端末の力を借りて、その壁を越えられる方法を考えていきたいです。自分の思いが伝わったときの彼らの得意げな顔を見ると、研究を続けてきて良かったと思いますね。

Q 学生たちにメッセージを

A いろいろな場所へ出掛け、たくさんの人に会い、見聞を広めてほしいですね。人との出会いは自分を成長させてくれる宝。ぜひ、一歩を踏み出しましょう!